



第3回生涯学習実践研修

「地域・家庭・学校・行政を結ぶ人づくり・まちづくり研修会」報告

11月16日（木）、地域の特性を生かし、地域・家庭・学校・行政を結んだ実践的な事例を学び、企画力・運営力の向上を図ることを目的とした研修を開催しました。事例は以下のとおりです。



午前の事例発表

- ・「地域の自然や伝統文化を生かす」
中川幹太氏（かみえちご山里ファン倶楽部）
- ・「里山の再生と冒険遊び場づくり」
山川成雄氏（赤城 コマランド）
- ・「地域がつくる町民立中学校」
小林八重子氏（せいろう共育ひろば「みらいのたね」）
居城葛明氏（(株)博進堂）

それぞれ資料をもとに、パワーポイントを使用したり、インタビュー形式で行ったりと工夫した発表でした。また、発表後は内容別に受講者が分かれ質疑応答を行いました。

午後からは、講師の清水隆太郎氏（えにし屋）の進行で、課題別にグループ編成を行い、ワークショップ（それぞれの課題を構造化し、グループの取組方針を決める）を実施した後、各グループの取組と各自の感想を発表しました。

受講者からは、「活動の成り立ち、現状、今後の展望等、とても具体的な話が聞けてよかった。発表している方の強い願いやエネルギーを感じた。」等の多くの感想をいただきました。

また、研修者相互の情報交換や支援のために、希望者でネットワークをつくりました。このネットワークを生かし、受講者のより円滑な交流が図れるよう、当センターでも支援していきます。

今後も皆様から喜んで参加していただける研修や、今日的な課題解決のための研修を考えて企画していきたいと思っています。

今後も大勢の皆様の御参加をお待ちしております。



午後のワークショップ

新潟県視聴覚ライブラリー連絡協議会

『連携と相互支援』を深める“視聴覚ライブラリー職員研修会”

【新潟県視聴覚ライブラリー連絡協議会】

平成4年4月1日に「新潟県視聴覚ライブラリー」が廃止となり、「新潟県立生涯学習推進センター」オープンと同時にその業務がセンターに移行しました。

そして現在、県内12の視聴覚ライブラリーが「新潟県視聴覚ライブラリー連絡協議会」を組織しています。視聴覚教育の振興とライブラリー相互の支援・連携を目的に、協議会事業として、年3回の研修会を行っています。

また、県内視聴覚教育の推進について、12のライブラリーが各地域を担当しています。

なお、視聴覚ライブラリーとその所在地は、以下のとおりです。情報教育と映像関係のお問い合わせは、近くの視聴覚ライブラリーにご連絡ください。

- ◆岩船広域教育情報センター (村上市)
TEL. 0254-53-7511
- ◇三市北蒲原郡地区視聴覚教育協議会(新発田市)
TEL. 0254-22-3915
- ◆新潟市立視聴覚センター (新潟市)
TEL. 025-222-7400
- ◇燕市視聴覚ライブラリー (燕市)
TEL. 0256-63-4131
- ◆三市南蒲地域視聴覚教育協議会 (三条市)
TEL. 0256-32-0810
- ◇長岡地域視聴覚ライブラリー (長岡市)
TEL. 0258-32-3716
- ◆魚沼視聴覚センター (魚沼市)
TEL. 025-794-2230
- ◇十日町市視聴覚ライブラリー (十日町市)
TEL. 025-750-5101
- ◆柏崎市立教育センター (柏崎市)
TEL. 0257-23-1168
- ◇上越地区広域視聴覚ライブラリー (上越市)
TEL. 025-522-2516
- ◆佐渡市立視聴覚センター (佐渡市)
TEL. 0259-23-5060
- ◇新潟県立生涯学習推進センター (新潟市)
TEL. 025-284-525

《付記》新潟県立生涯学習推進センターは、全県を対象としています。高等学校以上の高等教育機関及び登録団体が対象です。

☆☆☆ 情報収集は、ラ・ラ・ネットで ☆☆☆
携帯版がオススメ <http://www.lalanet.gr.jp/m>

【新潟県視聴覚ライブラリー職員研修会】

ライブラリー職員の資質向上と連携を一層深め、ライブラリー運営上の諸問題を解決するために実施しています。平成18年度研修会の主な実施内容は以下のとおりです。

- ◇第1回 4月28日 県立生涯学習推進センター
・地域映像制作について
講師：新潟地域映像制作ボランティア会長
・ライブラリーの運営について
- ◇第2回 7月14日 県立生涯学習推進センター
・コンピュータによる映像編集について
・自作視聴覚教材コンクール入賞作品について
- ◇第3回 11月17日 岩船広域教育情報センター
・Webの更新とブログ活用入門について
・データベースのホームページ公開について

その他に、新しい取組として『検討シート』（取組状況、成果と課題を記入したレポート）を活用して日々の視聴覚教育普及の課題と業務推進の諸問題を共有し、その工夫と改善に努めています。「生涯学習の新潟県」へ、質のある高まりを目指して“県民のために、県民にとって”の視点で、情熱的に業務を担当するライブラリー職員です。



【知って得する！視聴覚教材と著作権】

『映像作品の著作権はどのようなものが？』

⇒映像作品は、「映画の著作物」と呼ばれる。

- ①複製権（作品の複製、コピーを作る権利）
- ②上映権（作品を公に上映する権利）
- ③頒布権（作品を売り、譲り、貸す権利）

つまり、著作権者に無断で「映画の著作物」を公に上映したり、複製を作ることはできない。

『著作権の詳しい問い合わせ先は？』

⇒著作権テレホンガイド（電話相談）です。

- ◆専用電話 03-5353-6922
- ◆月曜日～金曜日
- ◆午前10時から正午、午後1時から4時

月1回の“感動”映画・ビデオ鑑賞会

着



〔企画・運営：映画ボランティアの会〕

『増える参加者に喜び』

映画ボランティアの会 会長 谷田 健六

センターには、16ミリフィルムやビデオテープが数多くあり、いずれも貴重なものばかりです。これらを紹介するために、「月1回上映会」を行っています。上映会には、受付や表示、アンケート、チラシ配布、上映する映画の説明などの仕事があります。

これらの仕事に、16名のボランティアの会員が心良く応じています。

また、上映するフィルム等の選択は、試写を必ず行うため苦勞も多いのですが、芸術・文化・歴史・スポーツ・娯楽・記録・現在の諸問題などの領域を設け、広い範囲にわたって行っています。平成13年度には596名の上映会参加者が、平成17年度には倍増の1,220名になりました。広報活動によることも大きく、また鑑賞会が県民の皆さんに理解されはじめたためと喜んでます。

* 4月から12月までの上映会参加者は、1,181名です。今年からの特別上映「タイムスリップ!にいがた」の上映会(2回)を含めると、1,334名に達しています。月1回の上映会を知らないなんて、「もったいない!」、参加しないなんて「ほっとけない!」ことです。

《映画・ビデオ鑑賞会の予定》

◆入場無料・申込み不要

1月28日(日) 13:30~14:30

『男のロマン 植村直己の足跡(トレース) ~北極からマッキンリーまで~』
1984年制作/記録画/60分
*語り 滝田 栄

2月25日(日) 13:30~15:10

『らくだの涙 ~ゴビに伝わる愛の調べ~』
2003年制作/記録画/40分

『ニホンザルモズ ~二十六年の生涯~』
1998年制作/記録画/52分

3月25日(日) 13:30~15:10

『越後奥三面 ~山に生かされた日々~』
第1部「山人の正月」
第2部「狩りの季節」
第3部「ゼンマイ戦争」
1984年制作/記録画/各30分

◆4月22日(日)に、
第4部「夏から秋へ」
第5部「冬とダムがきた」
を上映します。

*事情により内容を変更する場合があります。

●新潟県生涯学習情報提供システム「ラ・ラ・ネット」

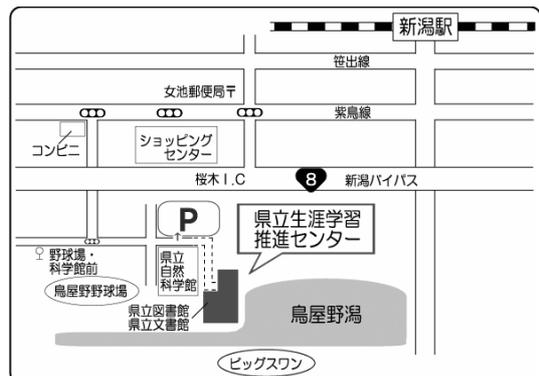
http://www.lalanet.gr.jp/
携帯版は、http://www.lalanet.gr.jp/m

●家庭教育・子育て電話相談「すこやかコール」

TEL:025-283-1150 FAX:025-284-6019

●生涯学習相談(兼新潟県体験活動等支援センター)

TEL:025-284-6119
e-mail:soudan@mail.lalanet.gr.jp



第2回生涯学習職員研修「基礎研修会」報告

1月28日(火)、生涯学習・社会教育関係職員等の資質向上を図るため、必要な基礎的・基本的事項について研修会を開催しました。

午前、生涯学習ゆめ・みらい研究所長の工藤日出夫氏を講師に、「先進的实践事例から学ぼう」と題して、日高市など自らが関わってきた実践事例の紹介なども含め、講義いただきました。

午後の事例発表では「佐渡市生涯学習推進計画策定への取組」を佐渡市教育委員会 生涯学習課 社会教育主事 坂井一美氏から、「アートキャンプin胎内2006の事業報告について」を胎内市教育委員会 生涯学習課 文化・文化財係 主任 伊東崇氏から発表していただきました。

その後、工藤講師の司会・進行で発表者への質疑応答を行いました。

受講者からは、「座談会方式で、より深く様々なことを聞けて大変有意義な研修に参加できたと思いました。工藤先生のお話が大変参考になりました。」等の意見をいただきました。参加者のネットワークを強めた研修となりました。



お知らせ

～新潟県立青少年研修センター主催事業の御案内～

高校生リーダーシップ研修「活気ある学校を創ろう！」

◇日時:平成19年3月17日(土)～18日(日)

◇対象:高校生

◇場所:県立青少年研修センター

◇費用:2,000円(予定)

新潟市越前浜5597-1

◇申込締切:平成19年3月3日(土)

◇内容:行事の企画や運営の実習をとおして、リーダーとしての資質の向上を図るとともに、県内高校生の交流を深める。

◇問い合わせ:
県立青少年研修センター研修課

Tel 0256-77-2111

◇定員:100人

“さわやか”メール

先日、NHK総合テレビ「プロフェッショナル」で「魂の林檎づくり」を見ました。自然農法による林檎づくりに成功した青森県の木村秋則さんの歩んできた苦闘と喜びの足取り。その中で「育てない」「人間は育つための手助けをするだけ」と、木村さんは繰り返し強調していました。

これを見て、日高敏隆さん(総合地球環境学研究所長)の言葉が頭をよぎりました。

「人間も動物も子は自ら育つ」「ただし自分で育つためにはきっかけが必要」「きっかけになるのは、子どもたちより先に生まれた周りのたくさんの人々、先生たち」「それをきっかけにするかどうかは、その子ども次第なのだ」……。最近、人間という動物の育ちの基本を忘れ、「育てる」「育てよう」という風潮にあります。子どもは「育てる」ものではなく、内なる力で「育つ」ものだという認識が必要ではないでしょうか。